

メディア産業の総合専門紙

文化通信

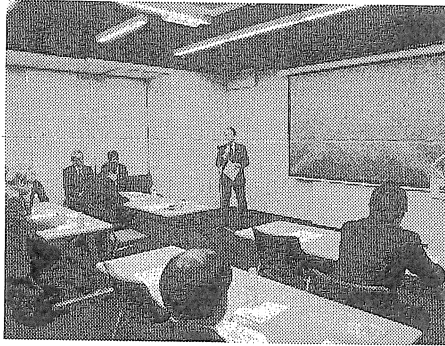
THE BUNKA NEWS

DOD出版センター

工学書協会の見学会開催 飯塚幹事長がPODの意義を説明

工学書協会は11月26日、東京・江東区のホワイトカンバスマONINAKAで、光和コンピュータやSCREENグラフィックアンドプレシジョンソリューションズ

(スクリーンGP)が運営するデジタル・オンデマンド出版センター(DOD)の見学会を開催



専門書出版にとつてのPODの意義を強調する飯塚幹事長

OD出版センター)の見学会を開催した。DOD出版センターは、光和コンピュータとスクリーンGPをはじめとして、印刷会社、出版倉庫業者などが協業することで、製造から流通までをサポートするプリント・オンデマンド(POD)サービス。見学会ではまず、DOD出版センター事務局の浴野英生氏(光和コンピュータ)の司会で、工学書協会・飯塚尚彦幹事長(産業図書)が専門書を刊行する同協会加盟出版社にとつてのPODの意義などを説明した。

飯塚幹事長は「我々の出版はストックのビジネスだったが、新刊依存型になってきた。これ

に対応するには小ロットをフルタイムなしに供給することに反響」と指摘。

また、PODのメリットとして、出版契約の継続出版義務を果たせることをあげ、「PODは『在庫なし』かつ『品切れなし』の究極の在庫管理」と述べた。

複数あるPODサービスを選択する視点として「事業の持続力、将来性を担保する技術開発力、最後は棲み分けができる安全性(競合しない)」だと述べた。

続いてスクリーンGP・平利文ソリューション統括部副理事がDOD出版センターのサービスについて説明、POD印刷機などを見学した。DOD出版センターではこの日にあわせて見聞も可能なウェブを公開し、来春にはウェブ上で見聞も、発注ができる体制を整える。